

☆私の意見

文化の未来像の 実現にむかって

吉川 進

△株式会社神戸風月堂取締役社長▽



私事にわたって恐縮だが、代々吉川屋新七の屋号のもとに回漕業、旅館、足袋商、洋服商、そして現在の菓子業に二百五十年、神戸と運命を共にしてきた。従って神戸に対する愛情はまたひとしおである。ひとくちに京阪神といっても、千年の都京都、日本の代表的商都大阪に比べて、たとえ清盛の福原京の歴史はあっても、急速に発展したのは明治維新とするならば、歴史的遺産は京都、大阪には及ばない。しかしながら背後に連なる緑の山のみ、世界に通ずる紺碧の海と自然の恵みに抱かれる地理的環境は、他都市にみられない優位性が神戸にはある。またこの立地条件に立脚したその進展は、現在フットライトを浴びる異人館、海岸通りに明治の情緒を残す居留地の香りを混然としてイメージ豊かな観光資源、産業資源を残した。

神戸は住みよい街、自然と食べ物に恵まれた快適な街との印象がある。もちろんそれも結構なことであるが、ベッドタウンに落ちついていては神戸の進展はもう望めない。産業経済の盤石の基礎の裏付けがなければならぬのである。ファッション都市宣言もひとつの表われである。ファッションという言葉から受ける感触は服飾衣料に限られるおそれがある。衣だけではない。食、住、相伴って生活ファッション、生活文化を総合してのファッション都市でなければならぬ。過去の歴史的資源は浅くとも、目を未来に転ずる時、そこには洋々たる前途がひろがるのである。神戸文化の貫禄は今こそ開始されねばならない。五十年、百年の将来にわたっての未来像を描き、その実現に熱情を燃やしたいものである。

神戸には、日本に向って、世界に向って、価値あるものと誇り得るものに何があるのか。内外に向って知らずに足る価値あるものが次から次へ生まれでる所に神戸の将来はある。神戸市民がひとつになってこの目標に燃え上る時、この大道は通じるだろう。「メード・イン・コウベ」とならんで「コウベ・イン・ワールド」を提唱したい。良識の街、感覚の街、神戸にかける期待はつきない。

こうべに神戸らしい店を...

KOBE
NIKKEN



店舗装備のプロフェッショナル
(株) 神戸日建

本 社 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
〒 651 ☎ (078) 251-3525 (代)
東 京 東京都中央区日本橋3丁目2-17
営業所 ☎ (03) 278-1369



「ノルテ」(中山手通1丁目、伸光ビル2F)

随 想



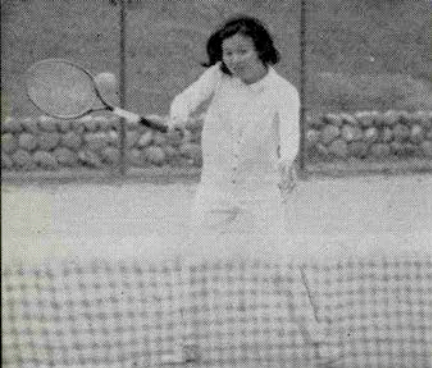
え・知念正文<神戸二紀>

テニスとわたし

嶺尾桂子

△主編▽

私とテニスとの出会いはもう二十四年前になろうとしています。小学六年の時、それまで住んでいた武庫之荘から住吉に移ってきた



コーチとして後輩の指導にも熱心な嶺尾さん

時です。引越しの日、私は大事に柱時計を抱えていたのですが母から「あれが新しい家よ」といわれた途端走り出して、見事にひっくり返ってしまいました。泣きべそをかきながら着いた家のすぐ横には、テニスコートがありました。当時甲南大学の練習場になっていて、学校から帰ると、何もかも放り出して見物していたものでした。

実際にやり始めたのは、姉が高校に入った時です。から中学二年。学校ではバレーボールをやり、家に帰って姉の練習相手をしているうちに面白くなってきたのです。三年の夏に近畿中学生大会があり始めて優勝の味を知りました。そして私が高一、姉が高三の時、兵庫県高校の試合は、二人で優勝

を争い、いつも姉に敗けて涙を呑んだものです。から、目標にして励みました。

その頃父はまだサッカーで国体などに出て活躍していて、テニスは、女か、か弱い男のする遊びだとけなして見向きもしませんでした。が、四十五才を過ぎるとさすがしんどくなつたらしく、指導書を読んでやり始めました。よく人は「お父さんの良き指導のもとに……」なんて賞めて下さるけれど父は「学校で大勢の子供に教えているのに家に帰ってまで教えられるか」といって勉強など少しも見えてくれませんでした。から、テニスについてもそうで、遅く始めたテニスを上手になりたいために、自分に喰いついてくる私達を練習相手にしたので、腕も始終私達の方が上でした。

それから私は、日本生命にまる三年勤めましたが、デ杯選手だった古田さんと森さん始め、日生のテニス部の方々にテニスはもちろん人生の色々なことを教えて頂き関西ではシングルス、ダブルス、ミックスといくつか優勝することができました。勤めを辞めて田中千代服装学園に通っている時、ろくに練習もできませんでしたが、小幡さん（現高木夫人）と組んで全日本選手権で優勝することができたので、選手生活のピリオドを

打つくざりとなりました。

その頃、テニスをしていた嶺尾と知り合ったのですが、結婚、育児と何年かずつのブランクはありましたが、テニスの魅力にとり憑かれ未だに続けています。そしてテニスの本場、イギリスやアメリカで試合を見たり、テニスをするのを夢のまた夢にして、今日もまた足がテニスコートに向っているのです。今テニスをしている人はとても多いですが、特に女性はフオームの美しい人の真似をして、素振りでも何でも、毎日少しでもテニスのための運動をして早く上達して下さい。楽しいですよ。

ホッケー仲間 楽しい

山徳 容至男

△甲南大学助教役▽



自他ともに認める“ホッケーの虫”山徳助教役

私とホッケー（陸上）とのつき

あいは、戦後のまだ難然とした、それでいてやや落着きを取り戻した昭和二十三年春に逆のぼる。

当時天王寺高校に通っていた私は、友人の父の関係でホッケーの話を聞き、同じやるなら人のあまりしていないスポーツをと、ホッケー部の創部に参加した。

一年下の学年から突然、男女共学となり、今まで見たこともない女生徒のブルーマ姿に仰天しながら未知のスポーツに打ち込んだ。物のない時代で、スティックも先

はベニヤ板の貼合せ、本体は竹の細板の組合せたものを糸で巻いてあった。練習中、先と本体がすぐ離れ、接着に使う膠を溶かす強烈な臭気が家中に充滿し、よく母に小言をいわれたものである。ポールも品不足で、不用になった国旗のボンボリを代りに使ったりした。

練習の成果は意外に早く実り、この年の秋、近畿予選に勝って国体出場が決定した。第三回国体である。意気揚々と大阪駅に集まったが、博多まで約二十時間、国体特別列車（名前はよいが）でゴトゴトと各駅停車のように止まり、着いた時にはフラフラ。狭い旅館に二チームが詰めこまれたうえ寒くて眠れず、夜中仲間とソツと抜け出して女中部屋に押し入り、上布団を奪って脱兎のごとく駆け戻

つたのを覚えている。

試合の方はいかなる理由か開会式の前日に一回戦が行われ惨敗。

翌日の式には小さくなって、大観衆の前を行進したのも、今はよき思い出である。翌年の国体にも出場したが、今度はたしか二回戦で惜敗した。この時の思い出はあまりないが、見物に行った浅草の名ばかりの喫茶店でメニューを頼んだところ、メー乳（多分牛乳）を持ってきたのにはまいった。

甲南大学（第一期生）でもホッケー部を創ろうとしたが、部員が集まらず、ようやく卒業前年の春に発足。私を除いて全員素人の集団で、スティックの持ち方から教え、ずいぶん苦労した。その甲斐あつてか、秋の関西学生連盟加入第一戦対京大の勝利は、生涯の思い出となった。不安と緊張、自信なげな連中を引き連れ、一人息巻いてはみたものの、何とも心細い限りであつた。試合は意外な展開をみせ、防戦一方の後半十分ごろの混戦から、松田完夫君（現ラジオ関西報道部長）が押し込み、そのまま試合終了。笛を聞いた時は飛び上がってへたりこんだ。スポーツの醍醐味である。

以来ホッケーとの縁が切れず、最近協会の力を入れていますが、でもホッケー仲間は楽しい。高校時代のチームメートの内藤修

君（現龍角散副社長）は、文字通りの親友であり、大学の監督であり兵庫協会の常任理事である高嶋良平君（現高嶋酒類食品常務）はよき後輩であり、彼もまたホッケーの虫である。

スポーツの楽しみ方にもいろいろあり、年齢や目的によっても異なるが、肉体的・精神的限界の中で精一杯努力するとともに、上達するために考える楽しみ、一種の創造性の世界がなければ進歩しないと強く考える昨今である。

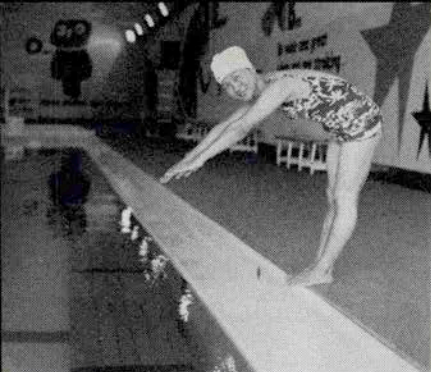
泳いでいると

だんだん若くなつて

新宮和子

△主婦△

今から二年余り前のこと、初めて水着が着られる機会に恵まれたその喜びの反面、初めて水の中に顔をつける恐怖感が先立ち「ハイ!! ビートをもっと強く」とコーチ



飛び込みのポーズもキマッてます。新宮さん

の声すら聞こえる余裕がない。一生懸命ビートをしているのに体がだんだん沈んでしまう（私のヒップが重すぎるのかしら？）他の人達はみんな軽々ビートをしている練習後、何となく気が重く帰宅する。「今日ね、水泳でどうしても体が浮かないのよ」と情けない声で主人や子供達にいうと、長男に「人間の体ってみんな浮くようになっていっているのや」といわれ、今度こそ頑張ろうと思ったが、次週もやはり足が重くて浮かない。だめかな？ だんだん水泳には向かないのかも知れない、と自信をなくしてきた。

今から四年前、過労で倒れ家族や周囲の人達に迷惑を掛けることになり、これでは自分も家族もだめになると思い、まず健康を取り戻すことが第一と考えた。水泳が全身運動で一番体に良いと聞き、YMCAの水泳婦人の部（松泳会）に入部した。

冬の寒い日も、雨の日も、一度も休まず練習して三か月にもなるというのに前に進まない。もうやめてしまおうかと何度も何度も思った。が、家族の応援や馬淵さん（元オリンピック飛び込み選手）、山本さん、半沢さん、他のコーチの方々にも励まされ、最初は口ではいい表わせない程疲れもひどかったのが回を重ねることに水にも

馴れ体も元気になり、食欲あり、睡眠充分、5kg余り体重も増えた。ある日、ふしぎなことに前に進まなかったビートが10m程進むようになり、次回には20m、次には25m、今度はクロールの息つきもスムーズに。25mを一往復二往復と進むようになり、ことばにならない感激を味わうことができた。ときにはプールの水深1mあまりなのに途中おぼれかかったときもあったことなどどこへやら。この姿を一番に喜んで下さったのがコーチの方々。日増しに元気な姿になり、今までのヘアースタイルも水泳のため変身。「今日ね馬淵コーチから飛び込みを教えてもらったのよ」と家で話すと主人や子供達が信じてくれないときもあった。それからというものの、水泳が楽しくて週一度が待ち遠しくなってきた。クロール、背泳、平泳ぎ、バタフライなどだけでなく色々楽しく遊べるゲーム、ときには何分もぐっすりいられるかというタイムを計ったり、コーチの方々のきびしさの中に楽しいときを過ごすことができた。主婦であり、子供のいることすら忘れ、少女の気持ちに返った気分になりだんだん若くなっていくみたい。現在、西宮コマスイミングスクール婦人の部で会員となり週一度続けています。体の続く限り続けたいと思います。

ある集いその足あと

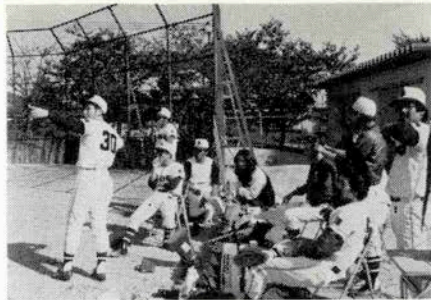
全関西行動美術野球部

辻司

△洋画家・行動美術チーム監督▽

行動美術には野球の系譜がある
 ようで、創立会員の小出卓三氏は
 薬専、故伊谷督藏氏は鳥取一中で
 選手だった。急逝した井寄氏はな
 かなかの速球投手で、当時文士連
 や京大美学と試合をし、よく勝っ
 たそうである。

十七年前はまだ天王寺美術館の
 下で草野球ができた。私も行動展
 に出品し始めた頃、試合をし、私
 の左中間の打球を田中阿喜良氏が
 靴を脱ぎ飛ばし追走された姿が思
 い出される。以来、研究所の講師
 でもあった小出氏に酒を飲み連



ベンチも楽しいムードで、左端背番号30が筆者

れてもらえるようになり、そして
 近所に移り住むようになった私に
 「グローブを買ったからキャッチ
 ボールしようや」と氏の五十代の
 頃よくお相手をした。氏の柔かな
 ミート打法は流石で動きもまだま
 だ敏捷であった。バッティングの
 心得も酒の肴となり振り廻しがち
 な私にはよい示唆となった。然し
 此の間の時々の試合は行動にとつ
 て投手に恵まれず勝てなかったよ
 うに記憶する。

六年前私が一年余りのスペイン
 滞在中、鴨居玲氏もおられ、一緒
 にアニスの盃を重ねた際、画兄も
 野球をやったそうで、「一足先に帰
 国し行動の野球を再編して置きま
 すから、帰られたら二紀と定期戦
 をしましょう」と約束した。二年
 後の七四年会の事務所に無理をい
 ってユニホーム資金を借り漸くに
 して今のチームが十名ばかりの人
 数で、荒木氏を総監督、私が旧チ
 ームとの掛橋役でブレイニングマ
 ネージャーとして発足したのが現
 在の全関西行動美術野球部。

人は知らずしらずの内に世間の
 おしきせを着ている事があり、美
 術団体の中にあっても、会員を目
 指し頑張るわけですが、そうなっ
 てみると、若い人と何げ無く話し
 てる積りが蟻まる事があります。
 それを円滑にするにも、好きな事
 で裸で付き合えるものが潤滑油に

なるし、また四十路に届けば酒量
 よりは、如何に美味しく飲むか、
 精一杯汗を流し戦の跡を肴に飲む
 酒の旨さは千金に替え難い。これ
 は野球の効用といえる。

再発足来の戦績を辿れば、間も
 無いこの世スネターズ(元南海の
 合田、阪急の深代、サンテレビ西
 沢アナ)戦で私が六本もの捕邪飛
 を逸し十一三で破れた苦い思い出、
 兵庫歯科医師会とは対、七六年宝
 塚リーグ高松宮杯ではベストフォ
 ー、初めての参加で早朝試合でフ
 ライが見えず我々夜族チームの墓
 穴を掘った。元町画廊杯二紀会春
 秋戦は二年になるが全勝で来てい
 る。通算十九勝八敗二分、手前味
 噌ながら制球のよい北田、強肩巧
 守の大塚外野手、三、四番の守谷
 佐藤は何処に出しても恥じない。
 また相手からは目の上の瘤、応援
 団長染色家、河内の姐さん小角女
 史の存在を忘れてはならない。十
 勝の時、小出氏はウインドブレ
 ーカーを揃えてくれたし貝原氏の支
 援にも感謝している。

平均年令三十六才、主力が四十
 代だからおっちゃんチーム。将来
 若手の加入を見、紅白試合が出来、
 他に文芸方面の六チーム程でリー
 グ戦が出来ればと見果てぬ夢を追
 っている。

■試合お申込み先・連絡先
 〒565 吹田市青山台二一六B3の103
 大谷哲生まで 電話 06-8332-1701

11月14日^① 全館完成オープン
 11月14日(月)より——全館完成感謝期間実施!



住友信託銀行 神戸支店

〒650
神戸市生田区元町1丁目 大丸西向い

☎ 078 (321) 1 1 3 1 (大代表)

大きな利息が何より魅力

住友の貸付信託

- 元金保証
- お預け入れは1万円単位
- 募集締め切り日より1年以上たっていれば期間に応じた利回りでも中途換金もできます。

積立て貯蓄の決定版

虹の通帳 積立てコース

- お預け入れは1回5,000円からいくらでも
- 期間は5年以上で、自由に決められ満期日にまとめて受け取れます。
- ボーナスで積み増しをしたり、積み立てを休んだり、いつでも予算に応じて自由にお預け入れができます。

お近くの郵便局からも申し込めます〈送金料無料〉

専用の申込用紙をお送りしますのでご請求下さい。

□私の交友録／若き日の画家と作家達 Ⅴ

パリの日本人

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員△



筆者をはじめ多くの日本人が住んでいたパリ、リュ・デュトーのアパート裏庭で。（昭和6年秋）右から筆者、マダム・テッパーズ、コンセンリュージュ夫妻

のアパートに住んでいた。

隣りの室の婦人は終日コトリとも音のしない静かな人で、何をする人だろうと思っていたが、ほどなくこの婦人が廊下で話しかけてこられて……私の室に日本の人の写真がたくさんあるから遊びに来ませんか……という。

さそわれるままに行ってみると、マントルピースの上にもピアノの上にも壁に古い日本人の写真がいっぱい掛っていた。見ると髪を分けた若き日の小杉放庵、山本鼎、満谷国四郎、足立源一郎などの写真で、七歳ほどの少女も一緒に写っている。……この少女は私で、私の父はフアルギエールに貸し、アトリエをたくさん持っていて、小杉、山本、満谷などの若い日本人の画家が住んでおられた。私は可愛い少女だったので、これらの日本人の皆さんに非常に可愛がられ、いまだに日本人の人達への美しい思い出が、深く胸に残って忘れることが出来ません。

このリュ・デュトーのアトリエも、胸に焼きついた幼き頃の思い出から日本の画家の人達に入っていただきたく思うのです……とマダム、テッパーズは話していた。小磯良平、島崎鶏二の前にも大久保作次郎、金山平三、柚木久太なども住んでおられ、私のアトリエの片隅に日本字で金山平三と書かれたカルトンがまだ置かれていた。

……日本人達は皆さん親切で人の好い方ばかりで、皆さん日本に帰ったら日本の着物とか人形を送るといって帰られるが、誰も送ってくれたことがない。柚木久太だけは時々日本の景色のハガキをくれた……と、アパート

私はパリに着いてアトリエの見つかるまで、郊外のフオントネ・オー・ローズの百姓家を借りて、日本から一緒に来たフランス文学者片山敏彦と住んだ。この村はボナールの生まれた静かな美しい村で、続く丘には麦畑とコクリコ（ひな芥子）の可愛い花が一面に咲き乱れた平和な村であった。しばらくして、パリ十五区リュ・デュトー四五番地にアトリエ付きのアパートが見つかった。リュ・ド・ボージラルを少し歩くとモンパルナスにも近く、私の移る少し前まで小磯良平、島崎鶏二などもこ



貧乏画家に越年資金を贈るためにモデルのキキ（右から三人目）が主催したバレエ公演で踊るモデルたち。（昭和5年）

のあるじ、マダム・テッパーズは目を細くしてしみじみ語っていた。その頃、年に一度、芸者を連れてパリに遊びに来られる播磨老人という人があった。神戸の播磨ゴム、播磨マツチなどの老社長で印度にあるハリマゴム工場の視察のついでにパリまで足をのばし、最初は神戸花隈の芸者屋中村屋の女将を連れてこられ、宮田重雄、益田義信、私などがひまをみて案内したが、和服で来た女将が、パリモードの服をつくりたいといいた。急で充分注文する日数がないので、百貨店トロア・キャルティエに案内した。店員が寸法をとっている間、私達は売場で待っていると、急に周囲の買物客が何かさわがしい気配になってきたので、見ると女将がなまめかしい長じゅばん姿で、足袋はだしてこちらに走ってくるのが見えた。……ペラペラ何かいいはるけど、さっぱりわかりま

へんので思いあまって走ってきましてん……。群衆の好奇の目が私達に集中して、私達は思わず顔をふせた。

次の年は、東京新橋の若い芸者を連れてこられたが、パリに着いてまもなく播磨老人は芸者と喧嘩をして、芸者は一人でシベリア鉄道で日本に帰ってしまった。淋しくなった播磨老人は、身辺の世話をするフランス娘を紹介してくれという。金を充分くれればアミになるというマドモアゼルを見つけて、顔合せに支那料理に行った。

食事が終って、老人がトイレに行かれた間に……ムツシュ・イトー、私はハリマのアミになるのをやめた……といって貰った金を返して帰ってしまった。食事の後で播磨老人が総入歯をはずして洗っているところを娘に見つかって、せっかくのアミがだめになった。

その頃芸術家の生活の場が、モンマルトルからモンパルナスに移って、キャツフェー・クーパーールやキャツフェー・ドームなど連夜若き画家や文士などのはでな行動で賑わった。世界的な写真家マンレイがモンパルナス附近の画廊や書店で個展を開き「モンパルヌ」で評判のモデルのボス、キキも毎夜のように若い画家や子分のモデル女達に、とりまかれて、はでな遊びをしていた。キキは写真家マンレイの夫人だが、年末になると子分のモデル女達を多くさん引きつれてモンパルナスの劇場で派手なバレエの公演をやって、収入を貧乏な画家と家族の越年資金に寄贈した。この写真のキキを中心に踊っているモデル女達は私達のアトリエに通ってくる顔なじみのモデルで、画家達は前もってモデルからこの入場券を買わされる。ある時、伊藤廉が話しておられた。……昨夜モンパルナスのキャツフェで座っていたら、中年の婦人が隣りに座ってびったりからだをすりつけるようにおしつけてくるので、びっくりして座を立ったが、後で気がついたらズボンのポケットからハンカチが出ていた……と笑っておられた。ズボンのポケットからハンカチをのぞかせていることは婦人の要求に応ずるというサインなのである。

蹴球、黄金のころ

高木 正雄

△神戸商科大学学長△

神商大、早大を降す——第九回朝日招待サッカー、神商大、早大に勝つ——朝日招待サッカー、といった二段抜きないし三段抜き見出しで当時関西の新聞はいっせいにその戦績を報道したが、いづれも大番狂わせであるとし、その理由を早大の練習不足とか神商大の闘志むき出しの攪乱戦法に早大がひっかかったためといっていた。

時は昭和二十六年一月十五日、サッカー最高の權威である朝日新聞社招待で関東の雄早大を敵にまわしての本学サッカー部の戦いであった。その日わがサッカー部は堂々と互角に、否むしろ終始優勢裡に戦いながらも、前半に一点、後半再開後間もなくまた一点と流石に試合巧者の早大に先手を取られ、一時応援する者をしてやきもきさせた。しかし商大勢は少しもひるまず、絶妙なコンビネーションと旺盛な闘志によって、大方の予想に反して終盤に近づくに従って続けざまに三点を獲得し、遂に逆転優勝をなし遂げて万丈の気焰を吐いたのである。

本学サッカー部の沿革をみると、昭和六年に関西蹴球連盟に正式に参加、大学高専サッカーリーグ二部に初出場するや連戦連勝、破竹の進撃を続けて全勝優勝を飾って一躍一部にランクされ、その後長らく京大、関学、関大の三強に伍して大いに活躍した輝やかしい歴史と伝統をもっていた。戦前全国高商大会で優勝三回を記録し、当時難攻不落を誇っていた京大を降した（昭和十四年）という誇るべき戦績も残している。戦争中は一時中断のやむなきに至っていたが、戦後いち早く復興したところ

たまたま学制改革によって新制大学に衣替えしたため、対早大戦に出場した選手はおおむね三年ないし五年間本学でボールを蹴っていた者ばかりであった。また彼らの多くは旧制中学時代からの名プレイヤーであり、しかも軍隊生活の経験者であった。これがために、一匹狼の集りで統制がとれないことが部にとって最大の悩みであった。この時に何よりの精神的支えとなり、部員の大同団結に与って力があつたのが、サッカー部創立以来ずっと部長としてあるいは顧問として部の面倒を見て、合宿にも対外試合にも必ず姿を現わして部員を叱咤激励し、部員から絶大なる信頼と尊敬をうけていた田中博教授（昭和四十九年夏逝去）の終始一貫して変わらぬ熱意であつた。それに技術面では、当時朝日新聞社のスポーツライターとして知られていた大谷四郎氏（神戸一中・一高・東大を通じての名選手、令兄大谷一二君——東洋紡績社長——は本学の前身高商第二回卒で、往年の名足として令名を馳せた）が昭和二十五年春から一年間週一回、時には二週間に一回多忙の中を態々来学の上親しく指導してくれたのであつた。氏は十数年後のある機会に當時を偲んで「商大のコーチは楽しかった」といい「……朝日招待で早大を破ったことも、私自身が選手時代にあれこれの優勝を克ち得たとき以上に愉快な思い出となった。コーチとしてひそかに練った計画がすべて実現した。卒直にいつて技術的にズバぬけてはいなかったが、みんなある水準に達した技術と素質が揃っていただけでなく、

一人残らず実に素直に私の指示を受入れ信頼してくれた……」と語り、試合前に自ら早慶戦を親しく観戦して来て、猛突の早大バックスに対しては早い球離れでかわしてウイングを走らせることにし、守備では、早大のエース松永がボールを持ちたがるくせがあるのを利用して、極力ボールを持たせて逆に行詰まらせるなどワナをかけるような戦法をとらせるようにしたところ、本学選手が



サッカー部創設以来顧問として尽した田中博教授

早大に逆転勝ちした第9回朝日招待サッカー大会出場メンバー（昭和26年1月15日、西宮球場）



第9回朝日招待サッカー大会 1951

この戦法を0—2とリードされていても忠実に最後まで実行したのが勝利につながったと述懐している。大谷コーチの技術面や作戦上の適切な指導に加うるにここに特筆しなければならぬのは「殺人トレーナー」の異名（あだな）をもって呼ばれた松葉徳三郎講師（当時朝日新聞社在勤昭和二十四年から四十八年まで本学非常勤講師として体育実技を担当）のフアイトにみちた猛訓練によって基礎体力が養われていたことである。

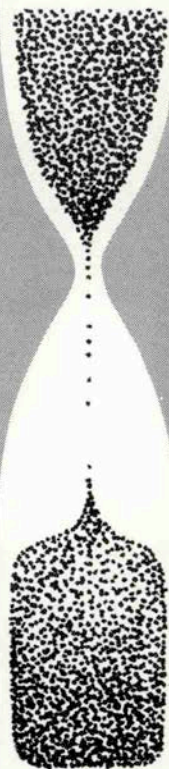
この大谷四郎氏といい、また松葉徳三郎氏という比類（たぐい）まれな人材に本学が恵まれたのは、新制大学になった時に初代学長として小島昌太郎博士を迎えたことに胚胎する。小島学長の下に初代学生部長を勤めたのが田中博教授であった。田中学生部長は前述のように長年サッカー部長であったばかりでなく「学問とスポーツを以て人格の陶冶を図る」ということをその信条としていたが、小島学長もこれに同意した。そして小島学長が京大時代の門下生でスポーツマンでもあった上野淳一氏（現朝日新聞社長）を田中部長の直属の部下である学生補導課長に迎えた。上野氏は大の学生好きで、何とかして「学生生活に花を咲かせたい、実も結ばせたい、充実した快い思い出や希望にみちた大学にしたい……」といった夢をえがいて学生の指導に当った。その一つが体育運動の振興のために松葉氏を講師に招いたことであり、他の一つがサッカーのコーチとして大谷氏を迎えたことであった。だから、すべては小島——田中——上野——松葉・大谷——本学の優勝という不思議なえにしによって結ばれていたのである。

序でながら、同じ年の秋全国学生陸上選手権大会で浜崎芳宏が二十キロで優勝し、神宮競技場のメインボールに商大旗をひるがえし学歌を吹奏させ、上野氏の夢がかなえられ松葉氏が満面の笑をたたえたことを簡単に紹介しておこう。またこの時期には、学問研究熱も極めて旺盛で幾多の優秀な学者を輩出して田中部長の信条が二つながら酬いられたことを付記して結びとしたい。

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



①

ファッション都市づくりに メンタルな配慮を

外島

健吉

〈神戸商工会議所会頭
株式会社神戸製鋼所相談役〉

嘉納

正治

〈神戸商工会議所副会頭
白鶴酒造株式会社社長〉

中内

力
〈アシエンフーズ株式会社社長〉

神戸市は現在ファッション都市づくりを目指しており、行政・経済界・市民が一体となっているいろいろなプログラムが進行している。

ファッション都市神戸の今後百年はポートアイランド―海上都市の動向いかにかかっている。さらに、それと対応する形で既成市街地の整備も急を要するところである。

キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」では国際文化都市として神戸はいかに、どうあるべきかを文化、経済、行政各界の方々により各論のよりつつ込んだ問題提起と分析を行い、国際文化都市への実践的な指針を展開するものである。

今回はこのほど帰国した米国経済視察団の一行にお集まりいただき、ファッション都市づくりに取り組む神戸に参考となることをお話しいただいた。

森本

泰好

〈神戸地下街株式会社常務〉

森

尙道

〈株式会社キャリアパン神戸店長〉

★ファッション都市づくりの参考になる「FIDM」

外島 アメリカへは三年振りなんです、この三年間、日本と比べて物価がそう上がっていない。その意味で社会は落ち着いているし、自分の生活のレベルをそれぞれ守っているというか、他人をうらやんだり、他人の分野を侵したりということはないですね。これが民主主義の原則なんですけどね。

ファッション関係ではニューヨークとダラスへ行きました。ダラスでは金持ちが土地や金を寄附して、ワールド・トレード・センターをつくっていますが、日本じやとても出来ない。第一、税制が違う。

それと古いものを大事にする。使えるだけは使うということが徹底している。日本人は性格的にどうもあきやすい。神戸はファッション都市づくりを標榜しているの

だから、神戸の古い昔の良いものはそのままの姿で保存し神戸の良さを保つことが必要ですね。異人館なども建てかえないであのままの風景を維持する。そういうことがぜひ必要です。

嘉納 今回の視察は神戸のファッショナブルな生活文化都市づくりには大いに参考になったように思います。

たとえばダラスの展示場。これは羨ましい限りですがとても真似は出来ません。展示場にはメーカーが拠点をかまえて展示会が終っても連絡場所を置いている。ポートアイランドにそういうものをつくるという努力が必要でしょうね。ロス・アンゼルスも再開発が進み大きなジョッピンクセンターも出ています。ヒューストンのジョッピンクセンターもすごいのですが、客観状況はこれでは成り立たないだろうと思われるほど入っている客が少ないんですね。ただコマ取りは日本の三倍ほどもあり、相当ゆつたりしています。

ダラスはいわゆる中南部のファクションの中心地です。アメリカのアバレル、あるいは、プティックがそのまま日本へ入ってもとてもお客さまは満足しないという現実があるかも知れませんが、小売業者は問屋と熱心に商談をしている。今度、ポートアイランドに出来るメッセにもあいう展示場方式が取り入れられることが、問屋業を神戸に定着させる一つの手段になるのじゃないかと思っています。

神戸の新しい町づくりでは、北野界限にしても異人館の保存には市の助成補助をぜひ考えて欲しい。一般もこういう公共物に対してこれは我々の遺産なのでもっと大切にしようとの気持ちが欲しいですね。ファクション都市を経済的にも成り立たせないといけないし、人材養成も必要です。しかし、それと共にそれを利用し享受する側の人の公德心とか、ものを大事にする気持ちが最近の日本人には欠けていますね。それを養うことが神戸が生活文化都市になり得る大きな要素です。

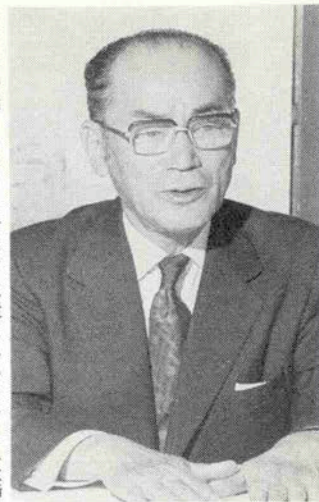
外島 アメリカのかつての投げ棄て文化をそのまま日本

人が受け取っているわけですね。ところが今度行ってみてよく判ったのですが、ものすごく節約をしていますね。

森本 神戸にはファクション都市を目指す手だてとしてファクション大学が欲しいということでその手本としてF I T（ファクション工科大学）がよく引き合いに出されていました。今度ロス・アンゼルスでF I D M（ファクション・インスティテュート・オブ・デザイン・アンド・マーチャンダイジング）を見て来たんですが、神戸が考えるのならF I TよりもF I D Mの方が下敷きとしては現実的じゃないか、もう少し本格的に検討をして、こういうものなら神戸でも可能じゃないかという気がします。芸術大学は行政の方でやっていただいて、プロのファクション選手を育てる学校はF I D Mをお手本にして神戸の業界の方々で何とかつくっていただきたいと思っています。

森 人材の育成ということでF I D Mで注目したのは法人経営でやっているようですが、F I D Mに関連するメーカー、小売りが三千六百社ある。この三千六百社が何らかの形でバックアップしているわけですね。F I D Mを卒業した人は関連企業へ就職が出来、あるいは、関連企業の社員がF I D Mへ勉強に行く。講師陣の構成は理論派と実践派に分かれ、学生は今のアバレル企業はどういう人材を求めているかが肌で分るし、企業の方も教えながらそれを説明出来る。単に就職するためにいい成績を上げるというのじゃなく、すぐ社会に役立つ若い人材が育ちやすいですね。

森本 ロスのダウンタウンの大きな家具屋の入っているビル五、六階で大きさは六万平方フィート。一九六八年に三人の先生と七人の生徒で開講した。それが今は生徒数は二千二百人。サンフランシスコに分校まであります。教師数は非常勤まで入れて百五十人。コースはデザインとインテリアとマテリアルの三部門に分れて、それがさらに細かく分かれている。入学資格は高校卒以上。コースの一つは年で千九百ドル。協力している企業のみ



外島 健吉さん

かには小売りもありますが、生徒はみんなそこへ実習に行くので月に二百五十ドルは稼げる。働きながら勉強をして二年で卒業して、二年間実地に働いて、さらに上の専門コースが二年ある。その他、図書室や資料室もあり狭いながらも充実しています。

★町づくりにメンタルな面での配慮が必要

森本 最近アメリカに出来つつあるショッピングセンターはどちらかというとヒューストンのように大きなものじゃなくもっと小型になって、いろんな工夫をして来ています。私流にいわせてもらうならコンクリートと鉄のジャングルから自然との調和、人間との対話を大事にした人間的なぬくもりのある、日本式に言えば情緒のあるショッピングセンターに形が変わって来ている。そういうメンタルなものを大事にする傾向がショッピングセンターだけでなくホテルのロビーにも出ているし、国際



嘉納 正治さん

展示場にもそういう考え方が入って来ている。万事、あらゆるものが生活文化の豊かさといったものを背景にしてハードな施設にまでメンタルな配慮を大事にしている傾向があらちちらに出ている。これは再開発の状況を見てもそうですね。こういう配慮はこれからつくるポートアイランドでも当然考えなければいけない。あまり便利さとか、効率のよさばかり追いかけ回したら結果的には消費者からソツポを向けられる。そういう気がします。

ニューヨークの今までの一番の強さは文化集積にあったが、その集積された文化が風化し始めている。これがニューヨークの一番の問題だと指摘している方がいらっしやいましたが、この問題にも同じようなことがいえるのじゃないかと思います。

これからの問題点の一つは市民が生活の質の向上、生活文化を充実させて行くところへすべての眼が向いているということ。これを考えると、ポートアイランドに国際会議場、展示場をつくる時にメンタルな面での配慮を考えないといけないです。

中内 年に二回くらいアメリカへ行っているわけですけど、今回行って気のついたことの一つは、ニューヨークは益々汚くなって来たということですね。ところがロス・アンゼルスは段々ときれいになって来た。

何故かという、美化運動が活発に行われているからですね。各地の住民団体がまったくのボランティアで活発に活動をしている。こういう住民運動があつてはじめて町がきれいになって来ているわけですね。

今、神戸がファッション都市を目指して行政、経済界が努力をしているのですが、町をファッションナブルにするという観点からいうと住民にそういう意識をもってもらう。神戸をファッションナブルな町にしようという住民運動にまで広げる必要がありますね。

森 私 はアメリカのマーケットに注目して見て来ましたが、ファッションの傾向にしましてはまったく日本と



中内 力さん

同じといいますが、決して日本が引けをとるということ
はないと感じました。実際に町を歩いている一般の人た
ちのファッションは非常にシンプルで質素ですね。特に
日本と違うのは若い人が非常に質素なんです。



森本 泰好さん

デパートに関してはターゲットが非常にハッキリして
いますね。ニューヨークだけでも十数店ありますが選別
されているのでオーバーストアということはないです。



森 尚道さん

ね。そのなかで全米小売第一にのし上がったメイシー百
貨店は大衆のニーズを見事にとらえていますね。一番効
率のいい売り場は地下街の食料品売り場。ハイムードで
ロープライスの商品がおいてある。ブルミンデルと
いうデパートはこころ、二年高成績を上げていますが、
都会的なセンスをもった大衆に的を絞って商品構成をし
ている。

ショッピングセンターも各地区でいろいろと回りまし
たけれど、代表的なところでニュージャージーにパロマス
というショッピングセンターがあります。自然志向と
いいますか本当に楽しいショッピングセンターで、公園
という感じで楽しさが出ている。専門店街のなかに子供
の遊園地があり、そのそばに子供服の店やおもちゃ屋が
ある。そこに来ている人の服装を見てもラフなカジュアル
で散策に来たような感じで賑わっていました。ヒュース
トンのガレリアというショッピングセンターは、一流の
デパートが核になっているんですが、一階の一番いい場
所にスケートリンクが出来ている。消費者の方がスポー
ツをしながらショッピングをし、食事もしというように
レジャーの一つがショッピングであるという環境づくり
が出来ていますね。ショッピングセンターでひとが集ま
っている共通点を見ますと地域に貢献し消費者に楽しん
でもらっているということを優先している。

ダラスのワールド・トレード・センターのなかのアパ
レル・マーケット（館）を視察したんですけれど、丁度、婦
人、子供服の見本市をやっていました。ただ単に服だけ
じゃなくて、アクセサリーからバッグまで含んだ完全な
服飾のトータルな店が入っている。全米やヨーロッパ、
極東からも相当仕入れに來られているみたいでしたが、
ポर्टアイランドにも神戸のアパレルだけでなく、全
国のアパレルメーカーが集まって全国の人を神戸に引き
つけるようにしたいといかない。

町づくりでは特にサンフランシスコは神戸に似ている
とよくいわれるのですが、坂があり山があり海があると

いう自然の良さ、ロケーションを生かした町づくり、ショッピングセンターづくりをやっている。自然や資源を大事にしていますね。

中内 最近建った新しいホテルを中心に見学して来たんですが、アメリカの都心型ホテルの傾向として二つハッキリ出て来ています。一つは会議施設を充実する。もう一つは市民のオアシスとしてホテルを機能させる。たとえば、我々の泊ったホテルの場合も四千人までまかなわれる大規模な宴会施設をもっている。さらに展示会場までもっているわけですね。オアシス的なものとしてはスカイレストラント、スカイラウンジの二つを必ずといっていいほどに備えていますね。五時を過ぎると客がスカイレストラン、スカイラウンジへ行くのにエレベーターの前で延々長蛇の列をなしている状況ですね。ホテルへ客を引きつける強力な武器になっている。ロビーにはラウンジやバーをつくってますけど、市民がよく利用し、客をいかに集めるかということに非常な努力をしている。

★ポートアイランドは二十一世紀神戸の起爆剤

外島 ポートアイランドについてはまず人が集まることを考えないといけないですね。それと同時に大阪など近くの人はいいとして、東京など遠くから来る人にはポートアイランドだけでは魅力不十分だから北野なりと一緒に回れるようにする工夫が要りますね。それには役所だけじゃなしに民間がアイディアを出してやらないとダメですね。神戸に人を集めるということをまず考えないといけない。それには神戸の町がファッショナブルであるとPRすることから始めなければいけないですね。

森本 最近アメリカではリゾートゾーンでの商業集積がいいわけですね。これは北野にも出て来います。こういうものが受け入れられる時代が来たと思いますね。減速経済に入って来て消費者が少しウエットになって来ているという気がして仕方がない。ポートアイランドは確かに二十一世紀の神戸の起爆剤にはなるけれどそれだけで

はどうにもならない。神戸の良さは海と山とが近い。そういう意味で観光産業の見直しをすべきだと思いますね。そのときに問題になるのが町が美しいことと、それと美味しいものが食べられることですね。

もう一つポートアイランドの問題点は、施設は役所の力でつくれると思いますが、つくったあとのマネージメント、経営ですね。それは何も採算の問題だけじゃなしに、来た人を楽しませるという努力を積み重ねることですね。町の性格が薄れること、風化が一番こわい。だから古いものを大事にする。その町の個性、ローカルティを積み重ねて行く。神戸の場合、これしかないですね。嘉納 神戸は観光ということにもっと力を入れ、異人館もアビールし、食べるものにも神戸ならではのものが必要ですね。もちろん、雰囲気をつくるということでも町の清潔さ、町並みも大事です。

中内 ファッショナブルな町というものは常に新しい動きを出さないとけない。すべてを計画的にやれば、いかにいいものが出来てもいつ行っても同じ店が並び同じことをやっているということになる。町に変化が必要ですね。神戸も遊園地とかポートアイランドを使って自由なスペースというものを設定すべきじゃないかと思いませんか。夜店のようなものですね。

森本 楽しさ、賑わいの演出が要りますね。いうところのパーソナルビジネス、手づくりの商品、高度の労働集約型産業の見直しですね。

中内 それとポートアイランドでは、交通の便が問題ですね。ポートアイランドのホテルには五百台の駐車場をつくる。市の方でも三千台の駐車場をつくってほしい。そうすれば人が集まる。そこから新交通システムで三宮へ行ってもらう。三宮で買物をして、また、ポートアイランドへ帰って来て食事をし、車でお帰りたい。外島 今度の視察によって得た成果を視察団員以外の人、一般市民にもこういう形でPRし、どういう形で実現して行くか、これからやらなければいけないですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

株式会社ワールド

会長 長木 口 衛
神戸市葺合区磯辺通3丁目2の17
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

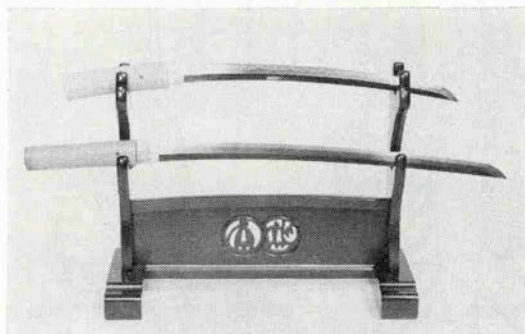
入船株式会社

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上7社の提供によるものです。

刀剣 古美術



脇差 白サヤ 銘 清実(二王)

長さ51.6cm(1尺7寸)¥260,000(貴重刀剣認定書付)

脇差 白サヤ 銘 備前国長船住祐定作

長さ39.8cm(1尺3寸)¥430,000(特別貴重刀剣認定書付)

鑑定 買入 刀剣 研磨 その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい。

お支払いに便利なローンをご利用下さい

刀 剣 元町美術
古美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081

新 栗

マロングラッセ

この秋実った大粒の丹波栗を
一粒一粒に丹精こめて
つくりあげた風月堂の
銘菓マロングラッセ



創業80周年

80



神戸 風月堂

本社/神戸元町3丁目 ☎078 (321)-5555

経済ポケット ジャーナル



★神戸製鋼所、新社長に

高橋孝吉氏

神戸製鋼所では、鈴木博章前社長が昨年九月に急死し、その後「鈴木路線」を継承して加古川三号高炉の建設や事務、技術部門が一体となった形での新しい組織づくりを推し進めてきた杉沢英男社長が会長に退き十月七日、高橋孝吉副社長が後任社長に就任した。



高橋孝吉新社長

高橋新社長は、減速経済の中でわずか三年の間に社長が三人入れ替わったことによる社内の混乱を最少限に抑え、新しい体制を早急に築くことが要求されるがそれとともに神鋼グループ全体の経営体質強化の総仕上げを課題としてスタートした。

★ダイエー、20周年記念パーティー開く

高橋孝吉氏（昭和十三年阪大理学部卒。同年神戸製鋼所入社。四十七年取締役、四十五年常務、四十七年専務、五十二年九月副社長を経て先月七日、新社長に就任。神戸市出身。六十一才。）

流通業界の雄、ダイエー

創立20周年記念パーティーが10月7日（金）正午から大阪ロイヤルホテルでひらかれ、参会者約千二百名という盛大な祝宴であった。ダイエー20年のあゆみと現況を、映画にまとめ二つの大スクリーンで観せ、中内功社長があいさつに立ち「昭和32年に京阪千林駅前に13名の社員で第一店をオープン、現在では直営店百十四店、グループで四百六十七店を持ち売り上げも一兆円を越えた。これはすべて消費者と取引先の支援があっ



中内 功社長

たからだ。これからも流通業界のあるべき姿を求め、消費者のために前進したい」と話し、来賓代表挨拶は佐伯勇大阪商工会議所会頭が行い「ダイエーが流通革命の先達として日本一のトップ企業に成長したのは中内社長の先見性とバイタリテイであり、そのパイオニア精神は大阪商人の誇りである」と激賞した。

★盛況のインポートフェア
「世界の一流商品がやってきた。海のかおりをのせてこの秋、フアツション都市神戸へ」とうたって「インポートフェア77・輸入見本市」が十月十二日から三日間、神戸サンボーホールで開かれた。出品業者は昨年の倍近い八十三社。展示品も外車に加わったほか、アクセサリー、繊維、食料品と多彩で不況だけに商談も熱がこもっていた。

★全国的な流通基地にと
輸入業者が結集
神戸港をバックに世界各国から衣料品、室内装飾品など軽工業品を集め、全国の小売業者を対象に販路を拡大していくというねらいで、神戸市内の中小輸入卸売専門業者が結集した神戸輸入品卸売センター（KIMM）が、十月七日オー

プンした。

同センターはフラワロードに面し、鉄骨造り地上



神戸輸入品卸売センター

十階、地下一階で延べ床面積は約四千七百平方メートル。総工費約十五億円。入居する業者によって神戸輸入品卸売センター協同組合（田嶋克巳理事長、三十一社加盟）を設立し、商品流通の推進、各種情報交換のほか、共同事業として教育の研修、販売促進のための学習などを計画。同協組では最初の一年間の取扱額は約百億円、五十五年十月には同二百億円を見込んでいる

★県下産業貿易発展にと
ニューヨークに駐在員
兵庫県は、県下貿易・産業界の北米における貿易、投資活動を側面から積極的に支援するため、世界最大の情報・商品センターであるニューヨークに駐在員事務所を十月一日に開設。商工部商業貿易課の寺畑建雄さんが駐在員として就任した。

駐在員事務所「JAPAN TRADE CENTER, NEW YORK 44th Floor, McGraw-Hill Bldg., 1221 Avenue of the Americas, New York, N. Y. 10020, U. S. A. 電話997-0400